



花王国際こども環境絵画コンテスト

KAO International Environment Painting Contest for Children



第9回(2018)
入賞作品集

花王グループは、世界の子どもたちに、身近な生活のエコと地球の環境・未来について真剣に考え、絵画として表現してもらい、それを多くの人たちに伝えることで、世界中の人々が暮らしの中で環境を考えて行動するきっかけとなることを願い、2010年からこのコンテストを実施しています。9回目となる今回は、世界44カ国・地域の子どもたちから12,563点のご応募をいただきました。その中から厳正な審査により選ばれた32点の入賞作品をご紹介します。子どもたちのそれぞれの作品に込めたメッセージをお受け取りいただけると、幸いです。

審査員の 総評



益田 文和

審査委員長
エコデザイン コンサルタント
元 東京造形大学 教授

年々、絵の稚拙さでは優劣つけがたいほどレベルが上がっている。そうすると、どうしても子どもたちが発するメッセージの内容に評価の重心が移ってくる。ここ1~2年、環境の問題に焦点を当ててその解決に向かおうとする作品と、自分にとって望ましい暮らしの心象風景を描く作品の二方向に分かれていっているようだ。このコンテストのはじめのころに多く見られた、単純な環境保護のスローガンの表現が減っているのはよいことなのだが、一方でそれは今の世界の状況に対する子どもたちの戸惑いや不安の現れだともいえる。大人はその変化をある種の警鐘として受け取るべきだし、作品に込められた子どもたちの疑義と期待に応える責任がある。



大久保 澄子

美術家

今回は世界中で頻繁に起こっている災害に対して危機感を抱いている子どもたちのメッセージを特に強く感じた。なかでも、災害に対して「自分たちも頑張ろう」というメッセージと、「美しい自然の中で、平和に生きたい」という、二通りのメッセージに分かれていたように思う。世界中で起こっている環境問題や災害に対する子どもたちの感受性豊かなメッセージを、回を重ねるにつれて強く感じるようになってきた。今回の審査会ではそうしたメッセージの中でも、環境問題や災害を少し違う視点でとらえた作品や、自分の思いを素直に表現している作品を選出した。



松下 計

東京藝術大学 教授

回を重ねるにつれて説明的な絵、ロジカルな絵がだんだん増えてきている。このことは一方ではよいことかもしれないが、環境問題やエコというテーマが非常に複雑化していて、簡単に表現できなくなっている時代の空気感が子どもたちの絵を通じて表れているのかもしれない。私が子どもたちに望むことは、どこか大人びたよそゆきの言葉で話すのではなく、君たちの目線で何が幸せで、何を守るのか、ということを絵に素直に表現してくれることだ。私自身も、審査を何度も行なう中で、そうした子どもたちの素直な思いに共鳴しようという意識に変わってきていると感じている。



オヤマダ ヨウコ

美術家、イラストレーター

今年は世界中で自然災害の被害がとて多かつた年だと思う。こうした1年を通じて子どもたちはどんなことを描いてくれるのだろうかと思ひながら審査に臨んだ。災害が起きた国の子どもたちは、自分の国のことを大切に思う気持ちを描いていた。一方で、不自由なく暮らしている子どもたちはその幸せを描いていた。今回の応募作品からはその両極を感じた。全体的に絵のレベルが非常に高く、最後まで選びきれなかったものも多かった。それは思いや情熱の強さのほんの少しの差だったと思う。みなさんには、なぜこの絵が選ばれたのか、どんなことを描いているのかを楽しく読み解きながら鑑賞していただきたい。



アンドレアス・ シュナイダー

デザイナー

たくさんの応募作品を見ると、作品の中に二つの異なる世界があるように感じた。ひとつは、コンテストのテーマに沿って課題にこたえる子どもたちの努力が反映された大人の世界。もうひとつは、作品裏面に貼られた「絵に込めた思い」の中に広がる、子どもたち自身の世界。たとえば、これまでの田舎のくらしや、自分の村での出来事、地元の祭りのお祝いなどである。副次的な要素と思われるかもしれないが、いくつかの言葉の中に広がる子供たち自身の世界に、豊かさや奥行きを感じた。子どもたちが純粋な心で、また世の中を変える力を持っている人々を動かすことができる創造力を持って、自分自身の経験や、考え、未来へのビジョンをより積極的に表現するために、我々はどうのように手助けできるかを考えていきたい。



石渡 明美

花王株式会社 執行役員
コーポレートコミュニケーション
シジョン部門統括

去年よりもレベルが上がっている分、今年の審査はさらに集中力を要したように思う。子どもたちの思いが伝わってきて、最終選考はかなり悩んだ。最近、世界中で台風や地震などによる被害が頻発し、みんなが地球に不安を抱いていたと思う。そうした状況下でも穏やかで幸せな表情をした絵が多くあり、私もそれらの絵に目が向いていたように思う。つまり、こうした生活を子どもたちが望んでいるということが心に響いたのだと思う。穏やかな生活を願う子どもたちの気持ちに応えられるような社会をつくっていかねばならないと感じた。



片平 直人

花王株式会社
作成部門統括

去年と今年では二つの変化を感じた。ひとつは描写の変化。去年は多くのメッセージを細かい描写で表現するものが多かったのに対し、今年はさまざまなメッセージを一見シンプルな描写で表現しているものが増えたように感じる。もうひとつは題材の変化だ。温暖化やごみ問題など世界に共通するテーマがある一方で、自分の地域や身のまわりの問題を題材にしているものが増えているように感じた。これは、まずは自分たちの身の回りから見つめ直す、という気持ちからかもしれない。こうしたローカルな視点を世界で共有することの一助をこのコンテストが果たしたら嬉しいと思う。

“いっしょにeco” 地球大賞



「未来へと続く道」

たけみ みほ
竹見 美保 さん (10歳/日本)

絵に込めた思い

青い海、きれいな緑の島が連なる。道は、とてもきれいな鳥や魚・動物が、いきいきしています。こんなきれいな地球をおとなだけがエコをするのではなく、わたしたち子どもも、エコをいっしょけんめいがんばりたいです。きれいな、青い海の未来の地球になりますように。

審査員 講評

子どもの目線から見た地域性と、そこにある文化がよく描かれている。日本らしい海に囲まれた風景が広がり、真ん中には道が続く。これは時間を現わしているのだろうか。上まで広がる緑、大きく描かれた動物などから、自然を大切にしたいという無垢な思いがストレートに感じられる。子どもらしい純粋な発想と豊かな色彩感覚で丁寧に表現されており、豊かな自然と一体になった日々の営みがありありと伝わってくる作品だ。

“いっしょにeco” 花王賞



「地球はわたしたちの家」

Alexandra Vyacheslavovna Alimova さん
(10 歳/ロシア)

絵に込めた思い

わたしはポドリスクという名前の小さくて美しい町に住んでいます。前は、春にナイチンゲールが巣をつくって、わたしの家のそばでさえずっていました。でも最近は、アスファルト工場が空気を汚しています。ナイチンゲールは飛んでなくなりました。大人たちは、町にきれいな空気を取り戻そうと運動しています。この絵で言いたかったことは、地球はわたしたちの家であり、大切にしなければならないということです。わたしはきれいな空気と、澄んだ川と、鳥のさえずりのある地球を、みんなのために守りたいです。地球のすべての人々がお互いのことを思いやって、幸せになって欲しいと思います。

審査員 講評

色使いなどがロシアらしい作品。シンプルな構成だが、赤とブルーが画面を引き締めている。自然素材のウールで編んだ服を着ている人たちが、工場から出てくる煙や汚れた排水をろ過してきれいになっている。「自分たちがもともと身につけているものと、まったく同じ素材を使って自然はきれいになる。だから地球環境を大切にすることは、自分自身を大切にすることと同じ」というメッセージを感じた。



「大地を輝かせよう」

Farhan Wibisono Widodo さん
(14 歳/インドネシア)

絵に込めた思い

私がこの絵画に込めたコンセプトは、インドネシアの日々の暮らしを描くことです。最近、インドネシアは森林伐採による自然災害を経験しました。私は農業の国としてのニックネームがある緑豊かなインドネシアを取り戻したいと思っています。この絵画はいくつかのステージで構成されています。一番下の段は豊かな土壌の生成と、樹木の植え付けです。2段目には地域の人々がみんなで仲よく水やりをする姿を描きました。3段目と4段目は最終ステージでは木々がよく育ち、人々が幸せな姿を描いています。地域の活性化と神への感謝の気持ちを表すため、レオグアートによる楽しいイベントを催しています。

審査員 講評

構図はシンプルだが、細部を観ると土を一生懸命耕す人たちが細やかに描かれている。みんなで肥しを与えて植栽をすることで、緑が少しずつ茂っていくという流れがよくわかる。よく観ると、うしろには寺院や教会があるが、昨今問題となっている宗教間の対立を心配しているのであろうか。一緒に仕事をするコミュニティや街での共存の大切さを表現している。黒の中に群青色が点在しているなど、色の扱い方も目を引く。





「私の夢」

Hoi Ching Pang さん

(6 歳／香港)

絵に込めた思い

地球温暖化や人間の不注意な行動などが原因で、山火事がいろいろな場所で起きています。こうした災害は、森林やさまざまな動物の生息地に大きな被害をもたらします。私の夢は、平和の鳥に乗って、いろいろな場所へ行き、みんなで協力して魔法の種をまいて、もともと地球に存在していた森林の美しさを取り戻すことです。そうすれば、すべての人類やいろんな種類の動物たちは緑豊かで快適な環境の中、健康で幸せな生活を送れるでしょう。

審査員 講評

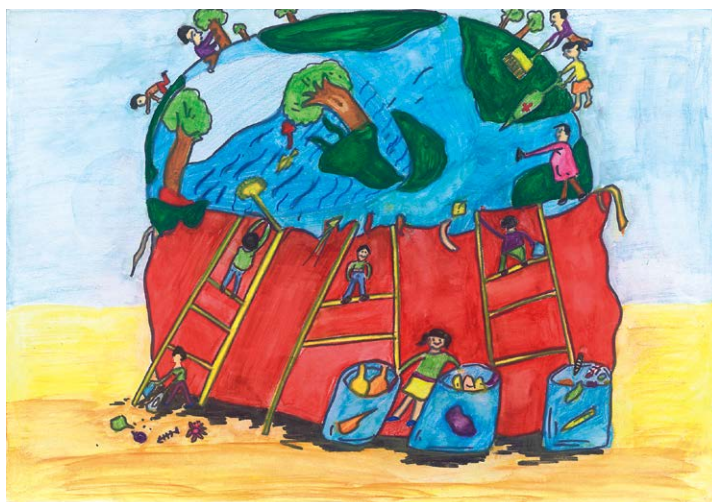
絵全体に子どもらしさがあふれた素直な作品だ。森林火災に心を痛め、「魔法のタネを使ってなんとかしなくては」という自然への思いがひしひしと伝わってくる。平和を象徴する鳩の上の子どもたち、さらに右側には豊かな緑、芽吹く芽や花も描かれており、大胆な二面性を感じる。黄色い太陽が描かれている位置も、よく考えられている。色彩が美しく、ものごとをのびやかで感覚的にとらえる力を持っている子なのだろう。

絵に込めた思い

プラスチックの再生利用は素晴らしいと思います。それは今必要なことです。私たちにも後世の人々にも、今よりもきれいな空気を共有する資格があります。だから、秘密を教えましょう。地球をきれいにして、私たちの周りがすぐれた価値観であふれるようにしましょう。

審査員 講評

毎年たくさんの地球の絵を観るが、地球を描く子にとってそれは大切な記憶として残る。このことを心に留めながら作品を観るようにしたい。この作品は、みんなで地球をきれいにしているというもの。今はシートで仮囲みされているが、いつかきれいになったら布が取り去られる日がくるのだろう。「地球を描く＝エコ」という作品も多い中、自分たちで環境をよくしようという強い思いを感じさせる独自視点を評価した。



「汚染をなくすことこそ解決策」

Manasvi Harlalka さん

(12 歳／インド)



「わたしたちは環境愛好者」

Melika Ahadi さん
(10 歳/イラン)

絵に込めた思い

この絵に込めた思いと願いは次のとおりです。
私の住む町はとても小さいのですが、とてもきれいです。素晴らしい場所や山、川、森がたくさんあり、私はそのどれも気に入っています。実際、私の絵は、川岸にいる友達と私の様子を描いたものです。私のお気に入りの場所です。この美しい場所が、将来、私たちの子どものためにも、ずっとそのままであって欲しいと思っています。だから、この環境を守ることが私たちの義務だと思っています。

審査員 講評

水の中に女の子たちはゆったりと足を浸しながら、とても気持ちよさそうにしている。3人とも表情が穏やかなところが印象的だ。環境について何らかの警鐘を發したり、提案したりという内容ではなく、「私たちがめざすところは日々の生活の中にある」ということが上手に表現できている作品だと思う。自然の中で生きることの喜びを感じる。この作品を通じて、私たちとは少し異なる幸せのあり方や地域性というものを知ることができる。



「その影響」

Nattha Kaeokamkong さん
(10 歳/タイ)

絵に込めた思い

次から次へと積み上げられた箱の一番下にある箱を、人が引き抜こうとしているところを描きました。その結果、積み上げられた箱は崩れてしまいます。一番上(5段目)の箱は地球を、4段目は人間を、3段目は野生生物を、2段目は水を、最下段は樹木を表します。表現したかったのは、一番下の段にある箱を引き抜くと、ほかの段の箱もすべて崩れ落ちてしまうという絵です。つまり、伐採などで森林を破壊すれば、地球上のすべての生き物に影響が及ぶということです。

審査員 講評

一見単純そうだけど、支えようとしているのか抜き取ろうとしているのかどちらにも受け取ることができ、奥深さを感じた。一体化を理想としているが、面の置き方や重なり方によっては崩れてしまう。こうした検証をしながら地球の問題を理解しているのだろう。まるで考え込まれた教育玩具のようだ。この不安定さが、まさに今の状況を表しており、不安も希望も伝わってくる。



「水に映る地球のよき未来」

Sherly Vermont Kwerni さん

(12歳／インドネシア)

絵に込めた思い

今から一緒に、環境に優しくする活動をしていきましょう。

今、わたしたちの地球は、さまざまな私たちの公害に脅かされています。たとえば、車の排気ガスや工場の煙による大気汚染があります。さらに、ごみや下水による水質汚染もあります……。干ばつも、新しい土地を拓くための森林焼却も、違法伐採もあります。これらは、間違いなく森の野生動物の生息地に問題を引き起こし、ダメージを与えます。そのため、わたしたちは地球温暖化を克服する取り組みに参加し始めなければなりません。そのひとつの方法として、木を植えることや、ごみを適切な場所に捨てること、生分解しない廃棄物を何か有用なものに変えることが挙げられます。わたしたちは、再生可能エネルギーと環境に優しい代替技術の使用を求めて運動を始めることができます。また、環境に優しい日々の行動についてよく知ること、そして環境を愛することです。このような活動はすべて、未来をよりよく、より環境に優しく、より涼しく、地球上のすべての生き物にとってより快適にするためのものなのです。

審査員 講評

現実と未来を対比する作品はよく出てくるが、本作はそれとは異なり、現実の厳しさを描きながらも、いま自分ができることをしようと訴えている。ゴミを拾うことでよい世界になるということを、水に映した希望の世界で丁寧に表現。西洋神話では鏡や水で自分の顔を見るのは自己発見や自己理解という意味があるが、この作品も女の子の実際の表情と反射したものとでは違う。自身を理解することの大切さも意味しているのではないかな。



「ごみを食べるクジラ」

Yueheng Hu さん

(8歳／中国)

絵に込めた思い

海に流れ込むごみの量が年々急速に増え、美しい海の環境と、それに依存している海洋生物に大きな脅威をもたらしています。私の夢は科学者になって、この絵のようなごみ処理場を発明することです。本物のクジラのように海を泳ぎ、海のごみを自分で探しまわり、食べもののようにごみを飲みこんですぐに処理します。このような方法で、海のごみを自らの燃料や再生可能資源につくりかえるという処理場です。

審査員 講評

細かくて何が描いてあるのか遠くからは見えにくいですが、観ずしてもメッセージが伝わってくるほど、構図がすばらしい。海のクジラがいろいろなゴミを飲み込んでいるところまで、非常に細かな描写で描かれている。このクジラは「エコ8」というロボットで、「テクノロジーがすべて解決するぞ」という、非常に前向きな楽観主義が伝わってくる。カニや魚の描写などもおもしろい。

優秀賞



「木を植えましょう」

Asra Abbasgholizadeh さん (12 歳/イラン)

作品 講評

木を植えるというシンプルな題材だが、二人はとても楽しそうで、セレモニーをしているかのよう。植樹をすることが幸せにつながることをドラマチックに表現した作品。色使いも美しい。



「自然環境」

Atena Hosseini さん (10 歳/イラン)

作品 講評

目が鳥だったり、魚に見えたりと、顔の中に自然の風景や環境に対する行動が描かれている。独創性の高い作品。この顔は自分であり、描かれた世界は環境についてのメッセージだと受け取った。

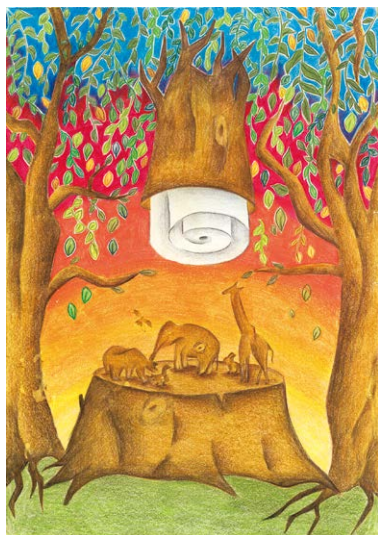


「水浸しの住宅団地」

Benjamin Yeo さん (9 歳/シンガポール)

作品 講評

過去の大洪水がテーマ。浸水した階の人たちは水着で泳ぎ回っているが、そんな暮らしはあり得ない。自然災害を単純に「悲しみ」としてではなく、アイロニカルに表現するという工夫がユニークである。

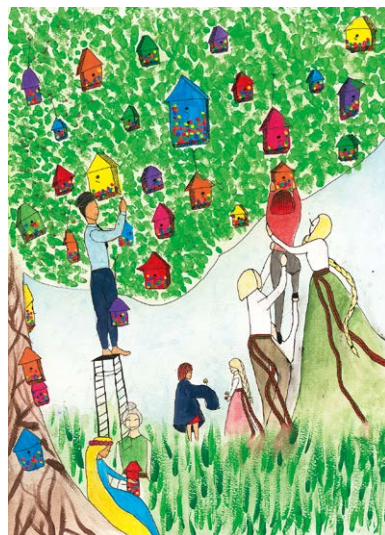


「紙の木」

Dayangku Hana Humaira Pengiran Zuaini さん (15 歳/ブルネイ)

作品 講評

文明の象徴である紙を作るために木が切られ、結果として森に暮らす動物たちの行き場が失われていくという、この子なりの警鐘ではないか。丸められた紙はまた、動物たちにスポットをあてた灯りをイメージしているのかもしれない。背景をはじめ、色使いがよく考えられた力強い絵だ。

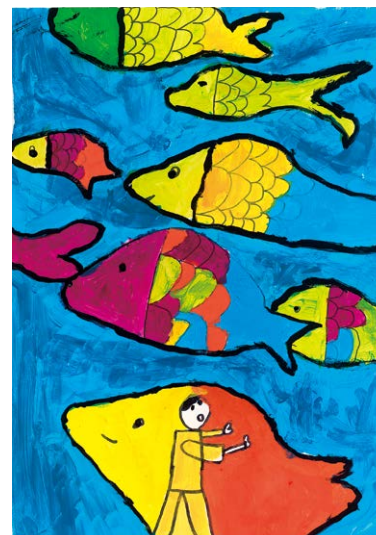


「小鳥の家」

Gabija Glineviciute さん (15 歳/リトアニア)

作品 講評

リトアニアの伝統である鳥の巣箱づくりは、自然保護にもつながっているという。伝統への想いや、みんなで飾り付けをするというヨーロッパらしいコミュニティのあり方を上手に描いている。

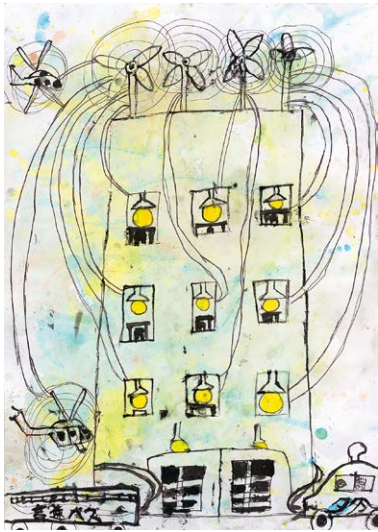


「おかしなトビウオ」

Hao Wang さん (8 歳/中国)

作品 講評

大きな魚のそばに人間がボツと描かれている。人間が環境を推進しているのではなく、環境の中に人間がいるのだということが表されていて興味深い。色使いや構図に乱れがなく、絵に力のある作品だ。

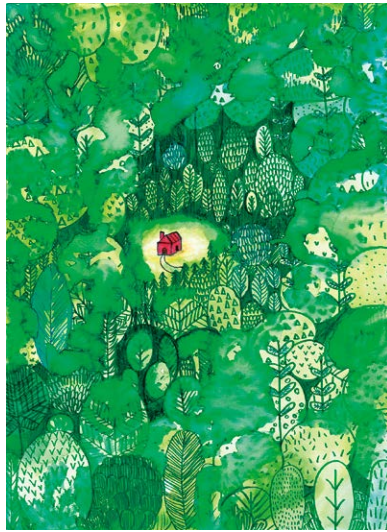


「電気をつくる工場」

むらさき はるか
村崎 遥香 さん (11歳/日本)

作品 講評

「風力発電で得た自然エネルギーの電気を皆で使おう」ということを伝えている作品。電線がいっぱい描かれていて単純明快。シンプルな題材と色使いだけで、これだけの絵がつけれるということがすばらしい。



「わが家」

Jarupa Thaochoo さん (12歳/タイ)

作品 講評

豊かな緑の中に赤の色が効いていて、対比が美しい作品。「森の中でポツンと住んでいるくらいの気持ちでいるのがいいのでは」と、シンプルな暮らし方の大切さを訴えているようだ。



「ごみだらけにするのはやめよう」

Ng Ray Yang, Harry さん (9歳/シンガポール)

作品 講評

一見すると暗い印象の絵だが、中央にいる二人の表情はとても明るく、その暗い世界の中でも、力強さと自信をもって熱心に活動している。一生懸命さがよい形で表現された作品だ。



「みんな自然環境の友」

Parimah Kiani さん (13歳/イラン)

作品 講評

一見不気味な感じだが、表情はとても明るく、ハートからは緑豊かな木が生え、たくさんの魚が泳ぐほど澄んだ水が流れ出している。環境問題への取り組みはまず心が大切であると訴えているようだ。

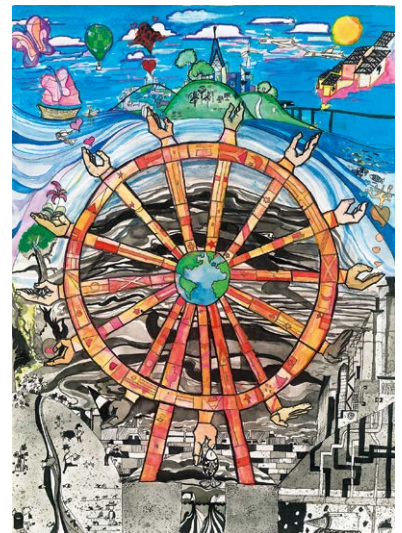


「ハチを守ろう」

Sophia Hardjoe さん (8歳/シンガポール)

作品 講評

蜂が楽しそうに飛んでいて元気のある作品。ミツバチが減少している話を聞いたのかもしれない。花の配置や色の入れ方もよい。非常に対比の強い色彩感覚や生きものの描写が素晴らしい。

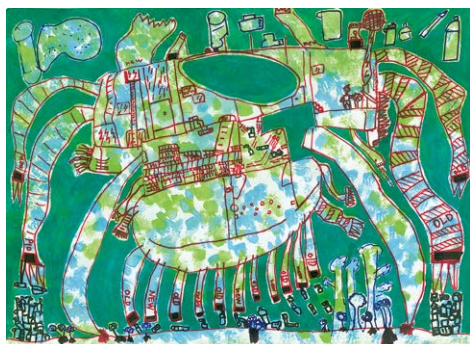


「いっしょに手を差しのべよう」

Tsun Hei Cheungi さん (13歳/香港)

作品 講評

観覧車の周りに「よいこと」「悪いこと」が描いてあり、悪いものには「NO」、よいものには「取り入れましょう」とある。シンプルだが工夫された表現に感心した。白黒とカラフルな色の対比も巧みで見事だ。



「自動清掃マシン」

Aik Jie Quah さん (7 歳/マレーシア)

作品 講評

分別マシンをイメージした作品。「分別することから始めなくては」という環境への思いが作品に表れている。一生懸命描いていることが細部からも伝わり好感を覚えた。



「緑豊かな公園」

Bach Tri Chau さん (11 歳/ベトナム)

作品 講評

自然を遮るように中央に伸びた道路は、「コンクリート化する町に反対」という思いなのだろうか。右側からはつがいの二羽の鳥が羽ばたき自然を謳っている。色彩や構図がよく考えられた、素直で美しい作品だ。



「おとぎ話」

Bilyna Stanimirova Todorova さん (12 歳/ブルガリア)

作品 講評

王女様をクロコダイルから助けたり、地球環境を守ったりするためにはヒーローが一人必要。自分がヒーローになれば!という強いメッセージが伝わってきた。環境のとらえ方が今までの作品とは異なっていて印象的。



「強いのはだれ？」

Eva Novakh さん (11 歳/イスラエル)

作品 講評

人間は自分たちが一番強い存在だと考えているが、そうではない、ということを訴えている。今問題となっているビニールのようにも見える魚の質感も含め、観る者を少し不安な気持ちにさせるのが今の時代ならではの感した。



「みんなでいっしょにお風呂」

たけもと はなこ
竹本 華子 さん (8 歳/日本)

作品 講評

一緒にお風呂に入ると家族円満の上に節約になるという、日本人だからこそ理解できる日常の幸せを描いた作品。外からはわかりにくい習慣の中に、智慧があるのだということが伝わってくる。



「地球の傷をいやす」

Harrison Mai さん (13 歳/カナダ)

作品 講評

非常に考えられた描き方やテーマで、とても目を引く作品。病院の診察室で大真面目に地球を治療している情景に、大人の知識や技術に対する子どもの皮肉が見て取れる。

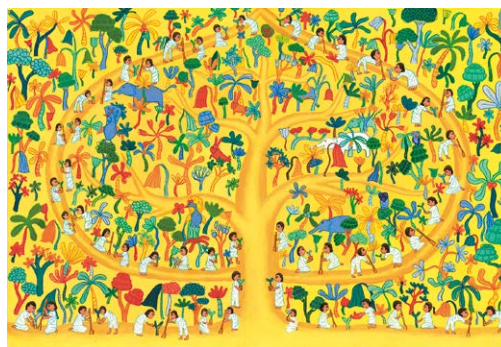


「私と夢の生態系」

Hesara Induwara De Silva さん (6歳/スリランカ)

作品 講評

直観的に描かれているが色彩感がよく、一つ一つのモチーフを伸びやかに描いている。画面全体がほのぼのとした子どもらしい素直さにあふれており、とても目を引く作品。



「美しい自然の創造物」

Kanokrat Rueangrat さん (11歳/タイ)

作品 講評

すき間なく描かれた自然や動物、人間の営みのすべてが、パズルのピースのようにびたりとはまってバランスをとっている。曼荼羅(まんだら)の絵のような世界観。象の絵や色使いなどもお国柄が出ている。



「資源リサイクル(環境保護)」

Negin Yarali さん (12歳/イラン)

作品 講評

ほのぼのとした牧歌的なよさがある。ボトルの色彩も秀逸。古タイヤとボトルで家をつくるというサイクル建築が実際に行なわれているが、それを題材としたことに環境への関心の高さを感じる。



「ビーチの清掃活動」

Ruo Ying Li さん (8歳/台湾)

作品 講評

台湾の作品に多く見られるが、国民性としてごみ拾いを大切にしているのだろうか。とても楽しそうに取り組んでいる。「ごみを拾うと海がきれいになるね」という、シンプルなポジティブさが心地よい。



「ワヤンで環境保護のメッセージを広めよう」

Viola Arielle Suliandy さん (14歳/インドネシア)

作品 講評

インドネシアの伝統的な影絵を題材にした作品はこれまでもあったが、これは自国の文化を理解した子どもたちが自ら演じている作品。エコを楽しみながら自分たち自身で学ぶ情景を、よく考えて描けている。



第9回 コンテスト 表彰式

2018年12月6日(木)～8日(土)に開催された「エコプロ2018」(東京ビッグサイト)の花王ブースにおいて受賞作品を展示し、最終日の12月8日には受賞者代表を会場に招いて表彰式を行ないました。

当日は44カ国・地域、12,563点(国内848点、海外11,715点)の中から、「いっしょにeco」地球大賞「いっしょにeco」花王賞に選ばれた8カ国9名が参加しました。審査委員長の益田文和先生からは、「皆さんと同じような気持ちで絵を描いている子どもたちが1万人以上いるということは、とても心強いこと。互いに影響し合い認め合いながら、世界中の人たちに環境の大切さを伝えていってほしい」との講評をいただきました。社長の澤田道隆から受賞者に表彰盾と副賞が授与された後、「いっしょにeco」地球大賞を受賞した竹見美保さんのスピーチが行なわれました。竹見さんは「美しい地球のため、子どもたちもエコ活動を頑張らないと」、また「みんなで活動をすれば、地球はどんどんきれいにはるはず」と語ってくれました。

表彰式後のインタビューセッションでは、受賞者から自分の国・地域の紹介や作品に込めた思いを語ってくれました。



受賞者の皆さんのインタビューセッション



受賞者を代表しスピーチを行なう大賞受賞の
竹見 美保さん



花王賞受賞の Farhan Wibisono Widodo さんに社長の
澤田から表彰盾を授与



受賞者の皆さん、審査委員長の益田先生(左から3人目)、社長の澤田(右)、
ESG部門統括のデブ・マンツ(左)と記念撮影

第10回コンテスト 作品募集のご案内



詳しくは WEB サイト「花王国際子ども環境絵画コンテスト」をご覧ください。

<https://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/painting-contest.html>

花王 絵画コンテスト

検索